(1) 1957年度漁撈部の試験研究の概要

1．海洋の調査

前年度よりの継続事業として実施した。毎年民間船を傭船として試験調査に当つているので所定の調査研究が出来ず観測は表面水温と比重と其の他海況気象の状況に重点を置き基本的定点を定めず漁業調査の往復又は漁撈中実施した（観測表参照）

2．鯖はねずり漁業

前年度より継続事業として実施した試験船が小型30トンで冬季の季節風の強い時は操業出来ないので本年は餌料の節減方法として酵素蛋白餌料による鯖はね釣試験を2回実施した。その結果稍々良好であつたので成果がはつきりするまで試験を実施する。其の他に於いては前年同様である。

3．回游魚（さんま、するめいか）

前年同様「さんま」3回「するめいか」1回調査を実施したが之も時化のため初期の目的を達成することが出来なかつた。

4．さつばいわし調査

本調査は八重山で棒受網による採卵試験で成果を挙げたが蛋の餌料としての活力試験が必要であるので本年トカヂキで行つたが器具不揃いのため活力試験までに至らなかつた。

5．鰹餌料の集魚及「水すまる」活力試験

鰹漁業は重要な漁業で従つて「水すまる」の調査研究も毎年実施しているが試験船の設備不充分で1回調査しただけであるので引続き調査する計畫である

6．鯨の回游状況調査

本年初めての調査で2月21日に慶良間、渡名喜、久米島沖合で115頭の座頭鯨を1月24日～1月29日の調査で6頭発見しているので琉球近海には相当来游するものと思われる。

(2) 鮪釣漁業調査

1955年度以来の継続事業として実施した。

1. 事業の方法

a	使用漁船	漁集丸（30屯無注水式焼玉65HP）
b	漁　法	鮪釣
c	漁　場	東支那海

4 漁　　期　　１０月～翌４月まで

Ⅱ 事業の概要

1. 航海実績

本年度は１９５６年１０月より１９５７年４月まで７航海実施した。

2. 試験の経過

本年度当研究所の鯖はね釣漁業試験の出漁回数は７回で其の内実際操業した試験回数は４回時化のため操業不能は２回、電気故障のため操業不能が１回である。　試験調査実施個所８ヶ所で釣獲回数４ヶ所其の他は集魚なく釣獲に至らなかつた事と時化り為め操業不能の場所である。（別紙漁場図参照）

3. 操業位置の座標及気象の状況下記の通り

年月日	航海別	天候	風力	風向	気圧	水温	比重	水色	気温	漁場の位置	漁獲
1956年11月2日	第一次	1.0	3	E	1016 mb	23.7℃	2552	Ⅱ	—℃	N28°-20′ E124°-30′	1,401斤
11月5日	〃	0	5	NNE	1015 〃	23.7℃	2593	Ⅲ	—	N28°-30′ E124°-15′	2,000〃
12月7日	第三次	8	3	ENE	1009 〃	20.7℃	—	—	21.0℃	N28°-00 E120°-00	3,195〃
1957年4月29日	第七次	0	4	NE	100mm	22.4℃	2650	Ⅳ	24.0℃	N28°-03′ E124°-30	520〃
計											7,116斤

4. 航海経過

第一次　１０月３１日～１１月３日

今次試験は本年度の航海で鯖漁場の移動状況、魚群濃度、餌付の良否に重点を置いて調査を実施した。東支那海域に於いて２日操業したが漁況思わしくなく水揚１４０１斤であつた。

１０月３１日泊港出港、波高敷で路時に漁夫を傷入れ１１月１日同港出港漁場に向う。

１１月２日漁場に近　くにつれ水温上昇し最高２５℃を示す。同１１時２０分２３度４分に低下したが予定位置（Ｎ２８°　Ｅ１２４°　３０′）に近づくに従て再び上昇し２４８℃を示した。同２日１７時鯖群の浮上を発見したが日没直后魚群沈下す。魚群を誘致すべく投餌１９時５６分数尾の小「イカ」が船につき、稍々しばらくしてから５、６尾の鯖が船に着き初めた２２時餌付稍々良好となる水温２３９℃水色Ⅱ気圧１０１８mb曇天、１１月３日１時３０分より雨天となる、餌付次第に良好になる、水温２３９℃６時４０分夜明と同時に鯖群沈下する。７時１０分同位置に投錨仮泊す。１１月３日１８時鯖群発見投餌１９時魚群船に着くも前日に比し餌付が不良２０時３０分魚群沈下逃散す、同時に西に針路を取り１５分航走し再び投餌１５分后魚群浮